

## 事例3

若者サポート  
ステーションでの  
個別相談における  
導入事例

# 「目に見える形」になることで、 「しごと」への方向性を 探る手がかりに

さがみはら若者サポートステーション  
総括コーディネーター（社会福祉士）

織田鉄也氏



全国にある「地域若者サポートステーション」（愛称：サポステ）は、15〜39歳の若者を対象とした職業的自立を支援する施設で、厚生労働省が認定した団体・組織が事業を受託して運営している。「自分に自信がなく働くことが不安」「ハローワークで求人票を見ても、自分がどの方向に行ったらいいのかわからない」といった人とその家族を主に支援しており、個別相談をはじめ、仕事体験、就職セミナーなどのサポートプログラムが用意されている。

さがみはら若者サポートステーションでは、キャリア・カウンセラー、精神保健福祉士、社会福祉士などの専門相談員が継続的な個別相談を行っていく中で、職業レディネステストを利用している。

総括コーディネーターで社会福祉士の織田鉄也氏に話をうかがった。

### ■曖昧なもの アセスメントで可視化される

さがみはらサポステでは、本人の就労に向けての方向性を探っていく手立ての一つとして、職業レディネステスト（VRT）、厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）を利用しています。

VRTは、相談員が個別に行う面談の中でも実施しています。サポステに来る方は、「自分は何がしたいのか、何に向いているのかわからない」というように、自立の方向性が見えていない方も多いため、それを考えていくための何か「形」がほしい。VRTは目に見える形で検討材料が得られる、ということが一番のメリットですね。非常に助かっています。

結果については、ほとんどの方が納得できています。自分の興味・関心、自信度ですからね。ただ、自分の方向性が自分でわかっていないと思っていて、単純に納得はできないという方は、もの足りなさを感じたりすることもあつて、結果が全領域で非常に低く出てくることもあります。それは不登校、引きこもり経験のある方などの場合、職業がなかったり浅かったりするので、歴がなかったり浅かったりするので、しょうがないと思います。そのため、結果は本人の納得感を得たり、参考にするためだけに留めるといふこともあります。

VRTは、高校などでも行われていることは多いと思うんですが、サポステに来られる方の場合、中退されていたりサポート校に通っていたりして、こうした検査を受けるのは初めてという方も多いため、不登校の人だと、実施された日に学校に行つてなかったということもあります。

### ■適切なフィードバックが大切

検査結果で出てくる職種や職業名が、必ずしも実際に本人が目指している職種とつながっているわけではない場合もあるので、それを踏まえてどうすればいいのかを相談場面でフォローする必要があります。本人に現実的にフィットする、就けそうな仕事名が出てくるといいと感じることもあるという相談員もいます。

出てきた結果をどう膨らませていくかというのは、相談員の課題でもあります。膨らませるための参考材料、職業情報の資料などがあるとよいですね。例えば、この仕事が具体的にどういう仕事なのかを本人とともに確認し、この仕事の経験を1年、2年と積んでいく中で、ほかにもっとこういう方向も含めて広がっていくこともあるんじゃないかと。それぞれの仕事の中にある広がりをみたいものをいかに豊かにフィードバックできるか。

サポステでは、すぐに正社員で就職



**さがみはら若者サポートステーション**  
 神奈川県相模原市緑区橋本6-2-1  
 シティ・プラザはしもと6階  
 「総合就職支援センター」内  
 TEL:042-703-3861  
 ホームページ: <http://parasute.jp/>

さがみはらサポステは、JR・京王線橋本駅からすぐのビルにあり、市内在住でなくても利用できる。働くことや自立に悩みを抱える15歳から39歳までの若者に対し、個別相談と各種プログラムによるさまざまな支援を行う。

■個別相談

面談は1回1時間。相談員が丁寧に話を聞きながら、状況に合わせて本人や家族と相談のうえ、課題やニーズの整理、目標の設定、支援計画づくり等を段階的に進めていく。担当相談員との個別面談の中で、各種プログラムへの参加を計画する。

■各種プログラム

●キャリア形成プログラム

仕事に直接結びつくようなプログラムで、仲間たちと一緒に就労を目指して活動する。

- ・職業適性検査
- ・就労準備ワークショップ
- ・ビジネス基礎講座

●アクティビティ交流プログラム

すぐに「就労」に向けて動き出すのが難しい人のための、まずは何か興味を持った活動をしてみて、それを通して仲間作りや交流をしていくプログラム。

- ・働くためのカラダづくり
- ・社会参加体験1(アートワーク)
- ・社会参加体験2(ボランティア)

●社会体験プログラム

いろいろな分野で働く人から「仕事や人生の話」を聞き、働くことや社会に出ることを間接的に学んだり、実際にさまざまな社会体験をしてみるプログラム。

- ・「働き方」発見講座
- ・若者支援特別講座

●就農体験プログラム

農場で土と作物を相手に身体を動かして働くことで、「生きる力」を取り戻す。地域の人たちとともに暮らし・生きる体験をするプログラム。

(内容は平成27年度プログラム)

するというのはなかなか厳しくて、アルバイト・パートからということが多いため、その場合だったらこういう進み方があるといったアドバイスも含めて、ですね。

C検査(自信)の結果が低く出て、A検査(興味)の値は比較的普通に出るという方は少なくないです。これまでの失敗・挫折経験などにより、C検査の値が落ちるといのは、見立てるうえで一つのポイントになってきます。

また、RIASECの尺度に傾向があまりはつきり出ないで、DPTのほうに顕著に出るケース。「対情報」はすごく高いんだけど、「対人」、「対物」は極端に低いという方もいたりします。VRTは、基本的にはRIASECを中心に設計されているので、DPTだけだと少し苦しいところもあるん

ですが、はつきり結果が出ている部分でこの落差をうまくフィードバックすることが大切です。

そうした方たちに対して、VRTやGATBは大きな推進力になる反面、フィードバックの仕方を間違えると、「自分はこうなんだ」と絶対視してしまっておそれがあります。検査はそうしたものだと思えますが、頭でっかちなりがちな方に、この情報でますます頭でっかちになってもらっても困る。そこは、検査結果をどう見るか、活かしていくかを相談員が正しく適切に伝える必要があります。

■まず一步を踏み出すために

不安で経験値がなく、内向きな発想、考え方をとりがちな方は、どうしても全体から一つを選ぼうとする。世の中に数多ある職種の中から一つに絞り込むという発想をとりがちなんです。一つに絞り込むための自己理解や、絞り込んだ一つの仕事に必要なスキルや能力を獲得する、という感じですね。

私たちは逆のメッセージを伝えていく必要があると思っています。「少しでもとつきやすいものから手をつけてみないと、次は見えてこないよ」とか、「経験やスキルなどは、やってみてその中でトライ・アンド・エラーで身につけていけばいいんだよ」と。そうしないと、身動きがとれなくなってしまうのです。

安心感がないとなかなか次の一步が踏み出せないというときに、VRTはその安心感を得るためにも役立つことができますから、有効に活用していきたいですね。



サポステスタッフ